

支 援

町田市教育委員会

指導課長 小池 慎一郎

2011年度 第1回ボランティアコーディネーター
地区別ミーティング報告

今年度最初のボランティアコーディネーター地区別ミーティングが、6月23日（木）の第2地区（忠生地区）をもって終了いたしました。特徴のあるそれぞれの地区で、2時間あまりという限られた時間ではありましたが、活発な情報交換が行われました。いくつかの地区ではオブザーバーとして、連携団体や大学の方をお招きしました。

南地区では生涯学習インストラクターの会相談役 川田 三郎氏、西地区では法政大学・桜美林大学、アクセスのよい4地区では、東京都の担当者や高橋教育委員にご参加いただきました。いくつかの会場では会場校の校長先生に最後までご参加いただき、貴重なお話と励ましをいただきました。さらに、各校に資料を準備していただき、大変参考になりました。ありがとうございました。



6/23(木)第2地区：山崎小



6/7(火)第3地区：大蔵小



6/9(木)第5地区：高ヶ坂小



6/15(水)第6地区：鶴間小



6/16(木)第4地区：町田一小

【第1地区…相原・小山】

- ・校長、副校長、担任と、十分コミュニケーションをとっておかないと不都合が起きることがある。
- ・特に学生はボランティア活動後、学校で振り返りができないときは、携帯で話すようにしている。
- ・桜美林大学は理数系にも力を入れ始め、内容によっては教員がゲストティーチャーをしてくれる。
- ・ボランティアコーディネーターは便利屋ではないので、出来ないことややるべきでないことはお断りすることも必要だ。

【第2地区…忠生】

- ・この地区は、7校すべてがサマースクールをやっているか志向しているのが特徴である。講座の主体者は、教員→保護者→地域の方→学生へと広がっていく道筋が見えてきた。経験の長い学校は、講座の精選（内容の充実したものを残す）、学生に企画・運営を任せたりする方向へと進んでいる。
- ・学校へは、教員と連絡しやすい16:00頃に行くようにしている。
- ・行事は変更等あるので、職員室の黒板、特に副校長後ろの黒板に書かれていることが参考になる。
- ・学校の様子を知るため、学校便りだけでなく、学年便りやPTA便り等、何でもコーディネーターのボックスに入れてくれるようお願いしている。
- ・VCすべてが保護者なので、地域に詳しい人が入っていてもよいのかなと思う。

【第3地区…鶴川】

- ・借りている田んぼを継続して使用するとき、ボランティアが高齢化し今後のために保護者の協力が必要である。作業内容をマニュアル化し、シフト表を作成すると案外うまくいく。
- ・校長からの依頼で、2年生の音読の聞き手を20名集めてほしいと言われた。何とか集めて月1回、2年生全員の音読の聞き手をやってもらっている。児童は緊張した中にも張り切って音読し、聞き手にほめられたり励まされたりして意欲的である。地域の方も喜んでやったださっている。
- ・保護者に「体験活動がいかに重要か」の啓発活動をやらないと、協力は得られないのではないだろうか。
- ・集計したら地域の方より保護者が多かった。（保護者の努力や熱意を見せないと、地域の方の支援は得られないと思うので、保護者が多かったことは次のステップにはよいことだと思う）

【第4地区…町田】

- ・教員の異動が多かった。前年度のことが学年間で思いのほか引き継がれていないし、そのような時間もないことがわかった。そこを引き継ぐのもコーディネーターの役割と心得、各学年の活動写真を教員用の視点でたくさん撮り、今年度の学年に見せ参考にしている。
- ・コーディネーターの役割を転任してこられた校長先生に作成資料を基に説明したところ、職員会議でも説明してほしいと言われた。（他地区でも、学年ごとに説明したという話がありました）
- ・高校生をボランティア活動に取り込む動きをはじめた。

【第5地区…成瀬、南大谷】

- ・コーディネーター1年目は、学校や近隣学校の様子を見ながら勉強した。2年目は、学校や教員からの依頼により、人材探しを行った。3年目は、それまでの学年の活動をまとめ、時期が来ると学年に提案したり、新しい企画の話をしたりするようになった。
- ・放課後子ども教室も行っているが、その企画を学校教育にも生かしてもらえないかと校長先生にお話したら、休み時間に展開できないかと打診があった。
- ・学期に2回程度、学生ボランティアとミーティングを行っている。

【第6地区…南、小川、鶴間】

- ・今後、中学生によるボランティアを考えていきたい。
- ・英語活動が入ってきて「総合」の授業が減ったため、これまでやっていた体験学習が出来なくなったのが残念である。
- ・月に1回、校内の気づいたところを掃除してもらうボランティアを募集した。1回目の活動は、新体力テストのお手伝いになった。（来年度以降、体力テストのボランティア確保が課題）

【中学校】 布 昭子氏や担当校長先生のアドバイスより

- ・ボランティア活動をやっていただく上で最も重要なことは、守秘義務を徹底することだ。そのため、学校であったことは活動後、控室で振り返り話してから帰宅してもらうようにしている。誰かに話すと、他者に話すリスクは減る。

- ・ボランティアを選ぶときは、信頼できる人をお願いする。誰でも良いわけではない。見つからないときは我慢する覚悟が必要だ。ボランティアの資質で、学校に迷惑をかけてはならない。
- ・ボランティアを育てることも重要だ。算数や数学の指導で、昔の教え方や言葉では、教室での指導と食い違いが出る。また、特に初回の活動は必ず参観し、きちんと指導するようにしている。さらに、ボランティア自身のためにやってもらっているのではない。校門を一步入ったら昔や今の肩書きは消え、ボランティアという肩書きで活動する意識になってもらう。
- ・来年度の教育課程の編成は12月頃より始まるので、それ以前によく学校とコミュニケーションを図っておくことが大切である。
- ・学力面の実態については教員に危機感があり、学校が保護者に知らせることで保護者にも危機感を共有していただき、補習学習等につなげていけば、参加者も増えると思う。

◇FC町田ゼルビア チーム発祥の地 小山小学校でサッカー指導◇

今年度も、いくつかの学校でFC町田ゼルビアにサッカー指導を行っていただいています。6月下旬には3日間、小山小学校で指導が行われました。

まず、6年生を前に体育館で守屋代表から挨拶があり、久しぶりに母校を訪ねられてうれしいこと、小山FCからFC町田ゼルビアが生まれたこと、ゼルビアの名前は小山小学校会議室の話し合いの中から、故重田 貞夫先生の発想で「町田ゼルビア」に決まったことなどを話されました。

その後、竹中コーチから「夢をあきらめない」「継続は力なり」というお話を聞いた後、校庭でサッカーの練習を行いました。2校時は6年生4クラス、3・4校時は5年生2クラスずつの指導をやっていただきました。

守屋代表から、地域に根ざしたチーム作りをしているFC町田ゼルビアとしては、市内の指導したことのない学校にも利用してほしいとのことでした。



◇図師小学校小 4年生 ごみ減量出前講座◇

市内23の小学校より、環境資源部ごみ減量課による小学校4年生の「ごみと環境についての出前講座」を申し込んでいただき、順次、実施しています。6月17日（金）は、図師小学校で授業が行われました。

校舎内で○×形式のクイズでごみの捨て方について学んだ後、校舎の外に出てゴミ収集車でのごみの集め方を見学させていただきました。



ごみを回収するときとごみをリサイクルセンターのピットに捨てるときの機械の動きを子ども達は興味深く参観していました。

この出前講座とリサイクルセンターをセットで参観すれば、良い学習になるなと思いました。



◇町田第二中学校「学習支援教室」の取り組み◇

町田第二中学校では、昨年の9月から水曜日の放課後に「学習支援教室」を行っています。スタッフは主に学生（玉川大学・青山大学・明治学院大学）にお願いしています。取材当日は数学少人数教室で、最初に5人の学生が担当教員2名と個人ファイルをもとに打ち合わせをし（写真参照）、その後、マンツーマンに近い形で英語・国語・数学を中心に、生徒の指導・相談に応じていました。

その場ですぐに相談できる、評価が返ってくる、笑顔で言葉が多く交わされているなど、生徒にとって恵まれた環境だなと思いました。終了後、必ず振り返りを行っているそうです。学生ボランティアにとっても生徒にとっても、有益な時間だと感じました。



◇大戸小学校スクールコンサート「歌のかけはし」小中一貫校開校記念◇

来年度の大戸小学校と武蔵岡中学校との小中一貫校開校を記念して、6月18日（土）に大戸小学校で「歌のかけはし」と題してスクールコンサートが体育館で開かれました。大戸小学校保護者と教職員の会が主催し、オペラ季節館の方々と近隣にある法政大学アカデミー合唱団をお迎えし、児童は全員参加で行われました。

当日は、学校主催で「東日本大震災復興支援チャリティ募金活動」も同時に行われました。新しい学校が立ち上がるという期待感、大震災の被災者ががんばれ、私たちががんばるなど、さまざまな思いをこめて教職員、児童、保護者、地域の方々が一体となって、楽しいコンサートとなりました。

